



想いと想いが、かけ算で

南麻布いきいきプラザで活動を始めて3年のさくらサロン。始まりは『想い』のかけ算からでした…。

当時はまだ、仕事をしている萩島さんは「仕事を通じて色々な知識や経験を持っている人が、地域にはたくさんいる。その人たちが地域に活かせることはないのだろうか…」と思い、知り合いの加藤さんは「仕事をしているからとはいえ、萩島さんが地域とつながっていないなんてもったいない…」と感じていました。

二人の『想い』は、話をする中で徐々に形になっていき、社会福祉協議会に相談・登録し活動が始まりました。



ふれあい相談員とも気軽に話ができます

活動がつながりを広げる

月1~2回のサロンは手芸を中心に活動しています。

みんなで集まって、気軽に話ができる関係をつくることを目的にそれぞれが自分のペースで楽しんでいます。

東日本大震災後の初めての冬。「私たちにできる支援は…」と考え、毛糸の手編みスリッパを被災地の仮設住宅に送る活動を行いました。

“誰かの役に立っている…”との『想い』から、普段はマイペースに作っている人も、この時はみんなと協力して短期間に100足以上を被災地へ送ることができたそうです。



サロンに参加して素敵な仲間が増えました♪♪

ゆっくりと時間をかけて…

さくらサロンの地域への「想い」がさまざまな人の協力となってつながっています。

知り合いからは「私は参加できないけど、こんな人が地域にいるわよ」と、今まで地域とつながる機会が少なかった人等に声をかけ、参加を促してくれることもあります。

また、ふれあい相談員（麻布地区）も暖かく見守ってくれ、ちょっとした困りごとの相談も気軽にできるよう配慮してくれています。

ゆっくりと時間をかけていくことで、たくさんの『地域を想う気持ち』を広め、桜のようにいつまでもみんなに愛されるサロンになっていくのではないかと思います。



被災地へ送った毛糸のスリッパ



消防署の方にも来てもらい最近の火災状況について話をしてもらいました